

指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大学／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

ことば P.4~5 濁音・半濁音

ねらい 似ている言葉が、濁点や半濁点によって違う言葉になることを楽しみながら、濁音と半濁音を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「たんぼほ」と「たんほほ」の両方を発音してから、「さあ、どっちかな?」と問いかけてみましょう。目で見ただけでなく、声に出すと違いがわかりやすくなります。

展開の言葉かけのヒント

「や」のつく言葉、ほかにもあるかな。探してみよう!と、身近なものをいっしょに確認すると楽しいでしょう。「ダンス」と「ダンス」のように、文字の見目は似ていても、全く違う言葉になってしまうものを見つければ、濁音や半濁音への興味がさらに広がるでしょう。

● 小学校へのつながり

小学校では、音から正確に文字に書き表せることが求められます。幼児期には、目で見えた文字を声に出して音で表現する活動を通して、濁音や半濁音の音の特徴をつかみ、音と文字が対応するようにしておくといえますね。



ことば P.8~9 拗音・拗長音

ねらい 似ている文字でも、拗音と拗長音の有無によって異なる言葉になることを楽しみながら、拗音と拗長音を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「大きい文字と小さい文字があるね。読み方は違うのかな?」と、拗音や拗長音に注目するような言葉かけ、「どうやって読むのかな?」と確認してみましょう。

展開の言葉かけのヒント

「小さい字は、縦書きのときは右上に書くよ、横書きのときは左下に書くよ」と伝えるといいでしょう。また生活の中でよくつかう言葉や、遊びの中でつかう言葉(たとえば「こちょこちょ」「によきにょき」など)を、いっしょに書いてみて、声に出して読みながら確認すると楽しいでしょう。

● 小学校へのつながり

文字と音が対応するよう、幼児期には「ゃ・ゅ・ょ」がついたときの音の変化を楽しみながら、ヤ行拗音の音の特徴をつかめるとよいですね。拗長音では「しょうほうしゃ」の音と文字を比べながら、「ょ」はオ段音であるけれども「う」で伸ばしていることに気づけるとよいでしょう。



もじ P.10~11 カタカナ

ねらい ひらがなのおさらいをしながら、外来語であるカタカナに少しずつ親しみましょう。

導入の言葉かけのヒント

「この中にカタカナが混ざっているよ。どれがカタカナかわかるかな?」と問いかけてみましょう。「数字の順番に書いてみようね」と筆順についても注意を促します。

展開の言葉かけのヒント

文字を書きながら、「ひらがなは丸い感じがするね。カタカナはとがっている感じがするね」などと、形の特徴を捉えるところからカタカナへの興味を誘いましょう。ひらがなの「う」とカタカナの「ウ」の文字は似ているというように気づくと、さらに興味が広がります。

● 小学校へのつながり

ひらがなとカタカナは漢字を元に、ひらがなは全体を、カタカナは部分を簡略化したもので形が大きく異なるため、子どもにとっては習得が難しく、小学校でもひらがなが全て読み書きできるようになるころにカタカナの学習を始めます。まずは読み書きできることを目標にするのではなく、同じ「あ」の音でもひらがなの「あ」とカタカナの「ア」の2種類があることに気づくことから始めましょう。



かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

かず P.18~19 長さ・量

ねらい 身近なものの長さや量を比較しながら、長さや量の概念の基礎を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「おいしそうなホットドッグだね。長いのがいい？ 短いのがいい？」と長短に注目するような声をかけます。全ての長さを順番に確認してみると、わかりやすいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

実際にペットボトルなどに色水を入れて、順番を入れ替えながら多い順に並べ替えてみると理解しやすくなります。ふだんの遊びや生活の中でも、多い順や長い順を意識した言葉かけをするとよいでしょう。積み木や木の枝などを利用して、具体的な経験ができるとういでしょう。

● 小学校へのつながり

小学校での長さや量の学習につながります。長さを直接比較するとききたいせつなのは、一方をそろえることです。そろえた起点から最も離れたところまで連続しているものが、最も長いものであることを確認しながら活動に取り組めるとよいでしょう。



かたち P.22~23 点つなぎ

ねらい 数字を順番にたどりながら点をつなぎ、1~40までの数字の順序を学びます。

導入の言葉かけのヒント

「すてきな町だけど、まだ道路がないよ。順番に点をつないで道路を作ってみよう」と誘います。まっすぐに線が引けなくても、「でこぼこ道もあるね」と楽しませましょう。

展開の言葉かけのヒント

次の数字がなかなか見つからないときは、「道に迷っちゃったかな。次の目印はどこかな？」と探検気分を味わいながら探しましょう。線が引けたあとは、「道路ができたね。いっしょに歩いてみよう。1, 2……」と声を出して確認しながら進めてみましょう。

● 小学校へのつながり

小学校1年生では、1位数(1桁)だけでなく、2位数(2桁)と簡単な3位数(3桁)を理解することが求められます。幼児期には、点つなぎの活動を楽しみながら「10、11、12……」と数を正しくかぞえて、2位数の数の順序に親しめるようにしましょう。



すうじ P.24~25 10の分解合成

ねらい 10という数字がいくつといくつから構成されているのかを理解し、足し算や引き算の概念を楽しみながら学びます。

導入の言葉かけのヒント

「いらっしゃいませ〜。お菓子屋さんです。お菓子を10個ずつ並べたいけれど……あれれ、足りないよ。いくつ足りないかな？」と、ごっこ遊びのように盛り上げます。

展開の言葉かけのヒント

お店屋さんの気分になって、「いらっしゃ〜い。おいしいですよ〜」と言いながら取り組むと楽しいでしょう。袋に分けるときは、「お客さんが持っていくやすいように袋に入れてね。数を間違えたらお客さんが困っちゃうよ。よくかぞえて入れてね」と声をかけましょう。

● 小学校へのつながり

これまでやってきたように、順序数の考え方でかぞえ上げていく方法と、集合数の考え方で「○と△で10」と考える方法とがあります。1年生の加法減法の学習に円滑につなげていくためには、集合数として数を捉えることに慣れることがたいせつです。



くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

くふう P.28~29 図形構成

ねらい ○、△、□の図形がさまざまな形から構成されていることを学びます。

導入の言葉かけのヒント

「あら、形がバラバラになっちゃって困っているよ。元に戻すお手伝いをしよう」などと声をかけます。面積の大きいものから考えるとわかりやすいでしょう。

展開の言葉かけのヒント

わかりにくいときは、シールを合わせながら見当をつけます。迷っている場合には、「パズルみたいだね。シールの形と合わないものはどれかな？」とヒントを伝えながら、「よく見て、自分で考えてごらん」と試行錯誤を促します。じっくり取り組めるような雰囲気を作るとよいでしょう。

● 小学校へのつながり

小学校の図形につながる学びです。全体の図形の中に隠れている部分の図形を、それぞれの図形の辺の数や長さ、角の大きさなどの要素に着目して観察できるようにしましょう。



くふう P.30~31 図形展開

ねらい 折り紙の左右対称の切り絵課題を用いながら、線対称の基礎に親しみます。

導入の言葉かけのヒント

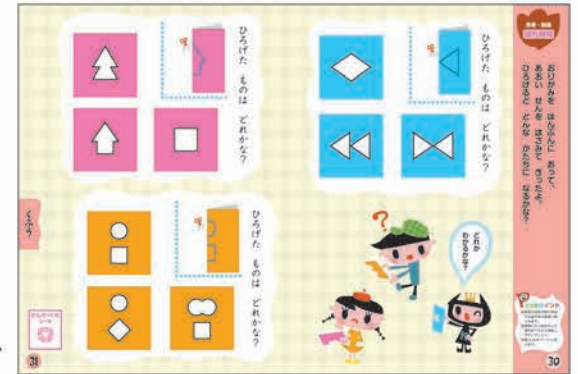
「さあ、広げてみるよ。どんな形になるかな？」と、実際の折り紙をつかって見せてもよいでしょう。いろいろ試した後で活動に取り組むと、イメージが湧きやすくなります。

展開の言葉かけのヒント

導入だけでなく確かめてみる場合にも、実際に折り紙をつかうとよいでしょう。思いがけない形ができあがったおどろきも大事な経験です。「あれ、チョウチョウみたいな形ができたね。おうちみたいな形もできたね」と、できあがりを楽しんで、違う色の紙に貼って飾っても楽しいですね。

● 小学校へのつながり

算数の線対称や図形の学習につながります。切る線の長さや向きをよく見て、折り目と線対称にどのような線ができるか予想し、描いてみたり、実際に紙を切ってみたりして、体験的に学べるとよいでしょう。



くふう P.32~33 時間経過

ねらい 3枚の絵を物語の経過に合わせて順序を並べ替え、物事を順序立てて考える力を養います。

導入の言葉かけのヒント

「マッキーが楽しそうに遊んでいるよ。最初の絵はどれかな？」と問いかけます。「次はどれかな?」「最後はどれかな?」と順番に質問していきます。

展開の言葉かけのヒント

順番がわかったら、お話を作ってみても楽しいでしょう。「マッキーがバナナを見つけました。皮をむいてジュースにしました。おいしくて、ごっこ飲みました」と、最初はおとながお話を作って聞かせます。次第に、子ども自身が楽しくお話を語るようになるでしょう。

● 小学校へのつながり

小学校では、授業でも生活の中でも、自分の思いや考えを順序立ててわかりやすく説明する力が求められます。幼児期から「まず」「次に」「それから」「最後に」など、順序を表す言葉をつかいながら、時間の流れに沿って説明することに慣れていくとよいでしょう。

